



常陽中学校だより No.9 H25. 9. 10

先週は台風や竜巻など荒れた天気には気が揉みましたが、やっと秋らしい爽やかな気候になってきました。朝夕はぐっと涼しくなり過ごしやすくなりました。季節は確実に変わってきました。

2020年東京オリンピック(9月9日朝礼での話し)

7日土曜日と8日日曜日、テレビに釘付けになった人も多かったと思います。東京が2020年オリンピックの開催地に選ばれました。1964年以来、二度目の夏のオリンピックです。東京オリンピック当時、私は小学校五年生でした。オリンピックが日本にやってくる、何かよく分からないけど大変すごいことになるらしいと子ども心に感じていました。学校ではオリンピックの歌を歌ったりしましたし、開会式のファンファーレは今でも覚えています。もちろんテレビでも見ました。当時は白黒の画面でしたが、マラソンや女子バレーボール、柔道の試合は印象的でした。

今回は東京、トルコのイスタンブール、スペインのマドリードの3都市が招致活動で競いましたが、それぞれの国が何かしら問題を抱えていました。日本のアキレス腱は東京電力福島第一原子力発電所の放射能汚染水対策でした。ですから、そのマイナスポイントをどれくらい払拭できるかハラハラして見ていました。解説者によると勝因は「積み重ねた幅広い力の結集」でした。4年前の招致運動は今ひとつ盛り上がり欠け、なすすべもなく負けてしまいました。今回はその反省の上に立って、日本の優位性を確実に訴え、IOC(国際オリンピック委員会)委員の信頼を得ていきました。

さて、今回の戦いで日本が世界にどの様に評価されているかが少し分かりました。経済力に加えて安全・確実に運営する力があるということ、それから控え目で忍耐強い国民性です。二年前の東日本大震災の直後、一件の暴動も起こさず忍耐強く救助を待っていた人達の様子を世界中が覚えてくれていたのではないのでしょうか。失敗から自分の足りないところを学び、それを一つ一つクリアーすることが大きな成功につながるのだと教えられました。それからもう一つ、決定後の挨拶の中で阿部晋三首相や猪瀬直樹東京都知事等がIOC委員に感謝の気持ちを述べるとともに、敗れたイスタンブールとマドリードに対して健闘をたたえコメントをしておられたのが印象的でした。何が何でも勝ちたいのはどの都市も同じでしょうが、相手を蹴落としても勝ちたいという態度は品位に欠けます。負けた二都市には次回頑張ってもらいたいものです。ともあれ、招致合戦に「勝つ」に至るまでに緻密な作戦があったことを覚えておいて下さい。

皆さんにとっては日本で開催される初めてのオリンピックとなります。2020年は皆さんは社会人でしょうか？大学生でしょうか？皆さんの中からオリンピック選手が誕生してくれたら夢のようなイベントになるでしょうし、そうでなくてもスポーツを愛する小・中学生に夢と希望を与えてくれました。これから先、まだまだ課題も多く長い道のりですが、今日は日本が勝てたことを素直に喜びたいと思います。

公立高等学校合同説明会(6/29)の実況録画

公立高校の合同説明会が6月29日(土)アルカイクホールオクトで行われました。その時の実況録画の映像が、尼崎市PTA連合会のホームページに掲載されました

掲載場所 : <http://www.amagasaki-pta.jp/movie.html>

進学したい高校は決まっていますか？自宅で見ることのできる人は是非参考にして下さい。また、学校にDVDがあります。三年生はもちろんのこと一年・二年生も遠慮せず担任に申し出て下さい。